

令和6年産 果樹情報（第3号）

令和6年6月11日
宮城県大河原農業改良普及センター

6月は梅雨の季節です。降雨前の予防防除を徹底しましょう。

- ・病害の多くは降雨により感染が拡大します。特に、保護殺菌剤は降雨前に散布しないと効果が低下するので、晴れ間をぬって散布しましょう。
- ・今月は、日本なしの黒星病やりんごの斑点落葉病、輪紋病の重点防除時期です。

1 気象経過

5月は、高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が多くなりましたが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もありました。月平均気温は[かなり高い]、月降水量は[少ない]から[平年並]でした(気象庁HPより)。

6月の期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。熱中症に気を付けて作業を行いましょう。

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

りんごやなしの満開期は、7日から8日早まり、果実肥大も平年に比べ良好となっています。

表1 もも（6/5調査）とりんご・なし（6/10調査）の果実肥大状況（単位：mm）

樹種	品種	調査地点	令和6年		令和5年		平年値		平年比(%)	
			タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ
りんご	ふじ	白石・郡山	36.0	36.8	39.0	39.1	32.4	30.7	111	120
なし	幸水	角田・豊室	29.9	33.9	33.9	38.0	25.5	28.3	115	117
		蔵王・高木	28.6	29.7	29.9	31.9	23.6	26.1	120	113
	豊水	角田・豊室	33.0	33.0	35.1	36.2	26.3	27.9	124	117
		蔵王・高木	28.8	29.9	30.2	31.7	24.4	25.5	117	116
もも	あかつき	丸森・館矢間	48.9	46.1	48.7	46.0	39.4	36.7	123	124

3 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 仕上げ摘果

- ・満開60日後まで（白石・郡山「ふじ」は6月20日頃）に終了すると果実品質が向上します。樹勢などに応じて着果量は加減しましょう。
- ・標準的な着果量は表2のとおりです。

表2 品種別の標準的な着果量

品 種	着果量の目安
つがる・ジョナゴールド・サワルージュ	3～4頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・シナノスイート・ぐんま名月・さんさ・千雪	4頂芽に1果

□ 新梢管理

- ・ 樹冠内部への日照を妨げている場合や防除薬剤の到達を妨げている場合など、必要に応じて徒長枝を切除します。
- ・ 太枝の切り口付近や背面、わい化樹の側枝基部などから強い芽が発生してくるので長大化する前に切除します。

ハ 病虫害防除

「宮城県病虫害防除所発生予察情報(令和6年6月10日発行)」では、**斑点落葉病の発生予報は多、キンモンホソガ、モモシンクイガはやや多**と予想されています。

・ 斑点落葉病

最低気温が20℃以上で3日以上連続降雨で急増する傾向があり、特に梅雨期から夏期の高温多雨で多発しやすいので、今後の発生に注意するとともに、特に梅雨時期は薬剤防除間隔が開きすぎないように注意します。

・ 輪紋病

梅雨期が重点防除時期であり、特にいぼ皮病斑の多い園地では予防防除を実施するとともに、いぼ皮病斑(翌年の伝染源)の発生防止のため、枝幹部へも薬剤が十分かかるように散布します。

・ ハダニ類

高温乾燥が続くと発生量が急増します。1葉あたり2頭以上確認されたら殺ダニ剤を散布します。除草作業と殺ダニ剤の散布日が近接する場合は、除草作業の数日後に殺ダニ剤を散布します。また、ナミハダニは雑草から移動し加害することがあるので、隣接園地の発生状況にも十分注意してください。

(2) 日本なし

イ 修正摘果

- ・ 満開後60日～70日(6月中下旬)の新梢停止期前に着果量が多く、小玉果が目立つ時や新梢の生育が悪い時は、着果量を調整してください。
「幸水」は、7月頃裂果が見られることが多いので、摘果は一時控え裂果が収束したところで小玉果、変形果、障害果等を取り除きます。
「豊水」は、スジ果や小玉果を中心に着果量の見直しを行い、軸折れ果を確認しながら見直し摘果を実施します。

□ 新梢誘引

・ 新梢の切除

側枝基部に発生した新梢や主枝・亜主枝の背面から発生した新梢の切除を行います。ただし、主枝・亜主枝上から直接発生する新梢の数が少なく、更新候補枝の確保が困難な部位では、側枝基部の側面から発生した新梢を利用するようにします。

時期は、満開後45日～60日(6月上中旬)を目安に実施します。この時期以降では樹勢低下や果実糖度に影響を与えるので注意しましょう。

・ 予備枝の管理

幸水の予備枝誘引適期は、新梢停止期の約10日前の満開後65日頃(6月中下旬頃)になります(新梢長90～100cm、展葉節数が18～20節程度)。

ハ 病虫害防除

・黒星病

令和6年6月10日発行の宮城県病虫害防除所発生予察情報では、黒星病、アブラムシの発生量は、「平年並み」と予報されています。この時期は、果実への感染危険度が高まるので、病斑のある葉や果実は見つけ次第取り除き、ほ場に放置せず地中に埋めるなど適切に処分しましょう。

黒星病は雨の日に感染し、感染好適温度は15～25℃で、9時間以上濡れた状態が続くと感染します。潜伏期間は14～30日程度で発病します。感染が見られる場合は、薬剤防除の間隔を短くし、降雨前に防除を実施します。スピードスプレーヤーは、散布圧力を下げ、各列走行をすると高い効果が得られます。

・シンクイムシ類、ハダニ類

ナシヒメシンクイは6月下旬から第1世代が発生します。ハダニ類もこれから夏季にかけて増加するので、ほ場内を見回り発生初期の防除を徹底します。

(3) もも

イ 修正摘果

「あかつき」で核障害の発生が多い場合は、修正摘果は2～3回に分け実施します。また、果頂部の変形や縫合線が深いもの、果面からヤニが発生したり果皮が変色している果実は摘果します。

ロ 新梢管理

5月下旬～6月中旬は、新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が過繁茂しやすくなります。樹冠内部、主枝・亜主枝・側枝の基部など、徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、健全な樹体管理を心がけましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定を行わないか最小限とします。

ハ 病虫害防除

・せん孔細菌病

春型枝病斑は徹底して切除するとともに、果実感染の時期なので、薬剤防除は、できるだけ降雨前のタイミングで10日間隔で実施します。また、降雨が続く長時間滞水すると葉の気孔が開き、急激に感染拡大することがあるので、排水対策に努めましょう。

・ホモプシス腐敗病、灰星病

芽枯れや枝枯れが見られる場合は、見つけ次第せん除し、重要防除時期なので、薬剤防除を徹底します。

- ・ 早生種の収穫時期に十分注意し、収穫前の使用日数制限を遵守しましょう。

(4) 各樹種共通

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ）のフェロモントラップへの誘殺数が過去5か年平均より多くなっています。令和5年11月から令和6年3月の気温は平年と比べて高かったため、越冬個体数が多くなったと推測されます。園内をこまめに見回り、早期発見に努めましょう。

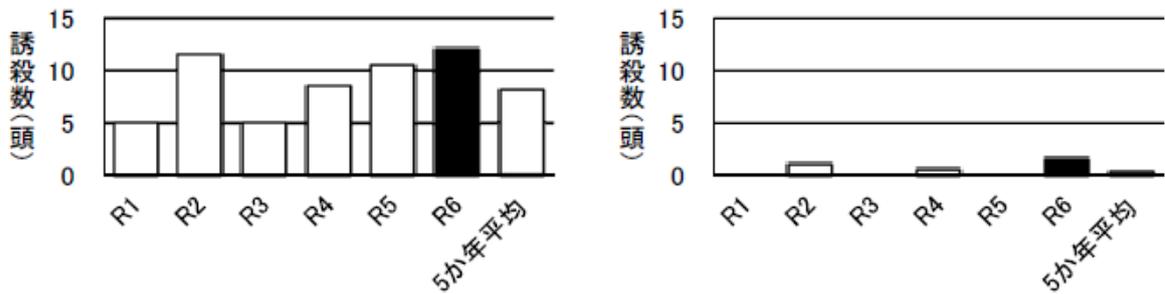


図1 フェロモントラップ調査における果樹カメムシ越冬成虫誘殺数
 (左:チャバネアオカメムシ、右:クサギカメムシ)
 (病虫害防除所調査、5か年平均:R1~R5の平均値、地点数:2、前回調査以降6月4日までの誘殺数)

4 1か月予報 (6月6日仙台管区气象台発表)

東北地方 1か月予報 (06/08~07/07)		2024年06月06日14時30分 仙台管区气象台 発表	
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。	
向こう1か月 06/08~07/07	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	
	気温	平均気温は、高い確率70%です。	
1週目 06/08~06/14	気温	1週目は、高い確率70%です。	
2週目 06/15~06/21	気温	2週目は、高い確率70%です。	
3~4週目 06/22~07/05	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。	

農薬危害防止運動実施中!

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット